

一の瀬園地

一の瀬園地は乗鞍高原にある広大な開けた平地です。この場所にはかつて森林鉄道が横切り、20世紀初頭には馬や牛といった畜産業の放牧地として利用されていました。このエリアはかつて森林におおわれていましたが、土地利用によって現在のような草原の姿になったのです。やがて、この草原での畜産活動は途絶え、作物や家畜がいなくなった一方で、シラカバの樹々や青々としたシダ類、色鮮やかな野性の花々など、さまざまな植物が代わりに根付きました。春にはミズバショウの群生が湿地エリアに広がり、夏には燃えるようなオレンジのレンゲツツジの花が咲きます。園地内には大きな庭園や池に形作られたエリアもありますが、ヤマアリが大きな塚を作り、キツツキやカケスが生い茂った草木の間を飛び交うような、完全に野生のままのエリアもあります。

現在ではこの場所は多目的スペースとして利用されています。この草原の平らな地形は夏の短いハイキングに適しており、またいくつかの登山道は乗鞍岳に登るコースや、周辺の山々に登る他のコースに繋がっています。園地内を流れている小川は子供たちが遊ぶ場所として人気があります。冬になると、この草原にはクロスカントリースキーを楽しむ人々が集まり、また光害のないこの場所は晴れた夜には星空観察に最適なスポットとなります。